



市制施行50周年を記念して「みらい懇談会提言書～夢と希望に満ちたこれからの守山」の一つに「読書日本一のまちづくり」が掲げられました。

岡市立図書館 ☎・☎(583)1639 FAX(583)6949

質問 障害がある人も本を読んだり図書館を利用したりできるの？

答 朗読会や郵送貸し出しなど、いろいろなサービスがあります



(上)公開朗読会
(下)バリアフリー資料のコーナー

図書館では読書日本一のまちづくりに向けて「だれもが利用できる図書館」となるよう、図書館利用が困難な人に対してさまざまなサービスを行っています。

- **郵送貸し出し** 来館が困難な人に、デジタル録音図書をはじめ、CDや図書などを郵送(無料)で貸し出しています。
- **公開朗読会** さまざまな本を、こちよ朗読で耳から楽しむ会です。自由参加で毎月第4土曜日午後2時から開催しています。活字の読書が困難な人のリクエストによる対面朗読もします(要予約)。
- **バリアフリー資料の貸し出し** 朗読CD、字の大きな本、点字絵本、LLブックなどがあります。
- **筆談、音声パソコンの設置、館内での老眼鏡、拡大鏡、車椅子の貸し出しなど**

名画の引き立て役・額縁

佐川美術館「アートコラム」⁶⁸

絵画作品を鑑賞する際に、言わば「あるのが当たり前」の額縁。今回は名画の引き立て役・額縁の役割をご紹介します。

そもそも額縁の発祥としては、イタリアのルネッサンス期にまでさかのぼります。当時の宮殿や教会の天井、壁板に描かれた宗教的絵画を別の場所に祀る際、装飾を施したのが始まりとする説があります。人々が祈りをささげる空間以外でも、神々が描かれた絵画を厳かに飾る必要があったのです。そのため額縁は建築装飾の一部とされ、植物などの文様をあしらったそのデザインから、ヨーロッパ家具の歴史と深い結びつきがあるといわれています。

長い歴史をもつ額縁ですが、日本では1878年のパリ万博の影響を受けて、明治期から国内でも製造されるようになり、現在も絵画作品の魅力を最大限に発揮させるために用いられています。作品をより華やかに、描かれたモチーフをより美しく際立たせることに額縁は一役

買っており、美術館などで展示される場合はなおさら必要とされます。今では油絵などの洋画のみならず、日本画や色紙、さらには短冊や写真まで幅広い芸術作品に額縁が用いられるようになりました。

絵画作品を保護するためにも額縁は用いられます。作品の周囲を囲むフレームのみならず、額縁には作品の表面をほこりや汚れから守るガラスやアクリル板が付属しています。なかには展示室内の光の反射を抑える低反射のアクリル板もあり、作品の筆致や絵具の鮮やかさなどができるだけダイレクトに味わえる工夫がなされています。

職人の手によって丁寧に作られた額縁はいわば、ドラマでいうところの名脇役です。これからは絵画作品そのものだけでなく、額縁にも目を向けてみてはいかがでしょうか。



佐川美術館
学芸員・藤井 康憲

※開館情報につきましては、ホームページでご確認いただくか電話(☎(585)7800)でお問い合わせください。